

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 39号 平成24年12月

発行元 福島市中町8番2号
財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

サイコー(再興・最高)の未来に向かって前進!

～福島県農業青年クラブ連絡協議会が『ふくしま農見本市』を開催～

平成24年8月26日(日)、福島県農業青年クラブ連絡協議会(県連:手代木秀一会長)は、『第22回ふくしま農見本市』を郡山市のビッグパレットふくしま西側広場で開催しました。

農見本市は、平成3年に「自分の色を出そう!」のコンセプトの下、初めて企画した農産物の展示・販売会で、今も続く県連の伝統行事です。

今回も昨年に引き続き、「原発事故に伴う県産農作物の風評被害を克服したい」とのクラブ員の熱い思いから、県連の『ふくしま農業PR活動』の一環として行いました。



消費者に農産物を販売するクラブ員

当日は、気温32℃を超える暑い一日でしたが、屋内では農見本市とコラボ開催のFCT『24時間テレビ愛は地球を救う』が行われ、両者の相乗効果により多くの家族連れで賑わいました。

会場では、7クラブの約50名が自慢の農産物(もも・ぶどう・メロン・トマト・ピーマン・ナス・

キュウリ・玄米等)や加工品(ぶどうジュース・焼きアスパラ・黒米菓子等)を販売しました。販売状況は、テントの前に出てスーパー従業員顔負けの大声を出し続けて誘客する者や、お揃いの赤いエプロン姿で洗練された販売活動を行うクラブ、トマトの詰め放題で人寄せするクラブなど工夫が見られ、販売方法も年々向上しています。

新企画の「農業体験(有料)」は、クラブ員が育てた苗(シクラメン・いちご・ブロッコリー)とポットや培土等を準備し、子ども達が苗の植付け作業を行いました。植付け後のポットには、県連PR用の小旗を挿して持ち帰って頂きました。



須賀アナ(前列左から2人目)と記念撮影

農見本市の閉会后、各クラブが店頭に設置したチャリティー募金箱を集約し、24時間テレビの本部(須賀アナ)に引き渡した執行部員の表情は、充実感に満ちていました。

農地保有合理化事業と 戸別所得補償の規模拡大加算 との関係について

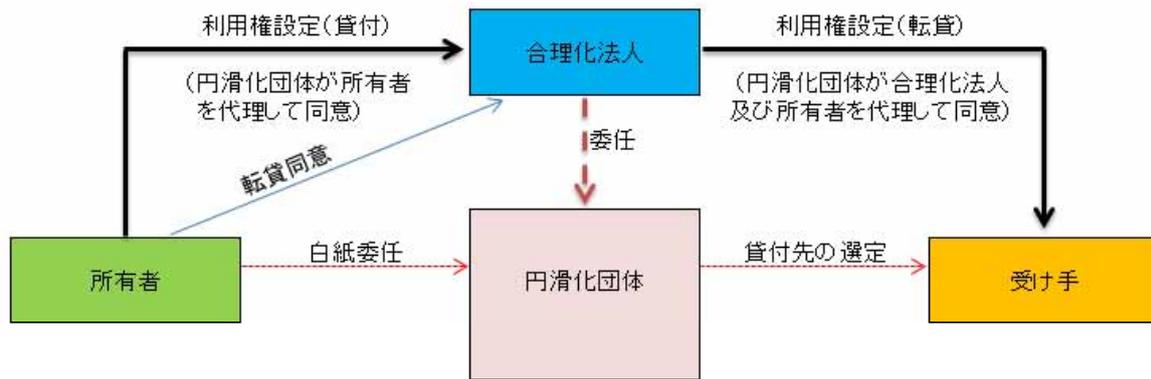
平成23年12月に国が示した「各地域の人と農地の問題の解決に向けた施策」の参考資料「農地保有合理化法人と連携した農地利用集積円滑化事業の実施」により、戸別所得補償の規模拡大加算へ取り組む担い手(受け手)に対して、農地保有合理化法人(県公社)が支援する手順について、下記の図のとおり示されました。

これにより、農地集積円滑化事業においても公社と連携することにより、次のような効果が期待

できます。

- ① 担い手は、規模拡大加算(20,000円/10a)の交付対象となること。
- ② 土地所有者は、農地保有合理化促進事業の賃借料一括前払い(6~10年分)を受けることが可能になること。
- ③ 農地利用集積円滑化団体の事務負担が軽減されること。

公社が農地利用集積円滑化事業と連携し、それぞれの事業をうまく組み合わせることにより、規模拡大を図る担い手農業者に対して更に農地利用の集積が推進することが期待されますので、取り組みにあたっては公社へご相談願います。



今月のコラム

私は、バスで通勤をしている。バスには一人のちえ遅れの子が、と言っても17~18才位であろうか毎日一緒に乗る。彼の名前は「おさむくん」である。名字は、わからない。昔バス通していた娘がそう呼んでいた。彼の奇声、奇行をあげれば枚挙にいとまがないが、話は彼のことでない。

何年前かのある日、バスに乗っていて気がついたことがある。バス停から3~40m離れた電柱のとなり立ってお辞儀している女の人があるの

である。始めはバスに向かってお辞儀をしているとは思えず、誰にしているのだろうと思っていた。数日後、彼女が彼の母親であることに気づき、それ以来、思わず心の中でお辞儀を返すようになってしまった私である。

近頃、彼女は姿を見せない日が多くなってる。そういえば、この頃、彼の奇声もトーンが落ち、奇行は激減しているようである。

s・m



育成センター

青年就農給付金(準備型)の 給付者は14名

国の「食と農林漁業再生行動計画」により、持続可能な力強い農業実現のための第一の戦略と位置づけられ、新規就農の増大を図るため平成24年度に新規事業として創設された青年就農給付金のうち、当公社が給付主体となり、就農前の研修者を対象として給付する準備型につきましては、7月上旬に第1回、9月中旬に第2回の募集を行った結果、14名の方から研修計画の承認申請がありました。

申請内容を確認するため申請者への面接を行い、いずれも申請要件に合致していると判断されたので、申請者すべての研修計画を承認し給付金を交付することにいたしました。

なお、研修計画の承認者の概要は、以下のとおりです。

研修期間別対象者内訳(H24-11-30現在)

項目	研修期間(単位:人、千円)			計
	1年	1~2年未満	2年以上	
対象者数	10	1	3	14
24年度給付額	15,000	1,500	4,500	21,000

14名の研修先の内訳は、先進農家等が8名、研修教育機関が6名となっています。

お知らせ



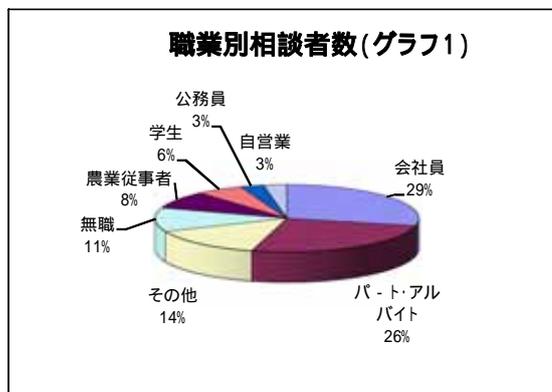
来年度に向けて、給付金の受給を希望し就農研修計画の承認申請を希望される方は、申請要件など詳しいことについて、公社の青年農業者等育成センター又は最寄りの県農林事務所へお問い合わせ下さい。



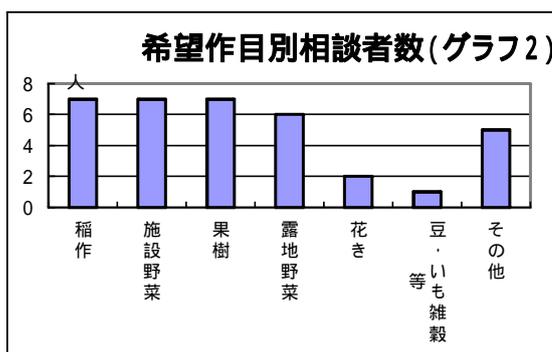
今年度これまでの 新規就農相談者数は35名

当公社の青年農業者等育成センターでは、新規就農希望者からの就農相談を受けておりますが、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所の影響から、震災前に比べて相談者数が大幅に減少しており、平成24年10月末の相談者数は、35名となっています。

相談者を職業別で見ると会社員が10名(29%)、パート・アルバイト9名(26%)となっています。(グラフ1参照)



また、希望作目別では、稲作7名、施設野菜7名、果樹7名、露地野菜6名となっており、この4つの作目で全体の約8割となっています。(グラフ2参照)



ちなみに、リーマンショック後の雇用情勢から職業としての農業への注目が集まった平成21年度の相談件数195件と比較すると、原子力災害の影響の大きさが思い知らされます。

公社リース事業で 経営改善を実現

大玉村 今井哲夫さん

私は、大玉村で水稻作付け(19ha)、作業受託(20ha)、野菜栽培(0.8ha)の複合経営を家族4人(妻、息子夫婦)で行っています。

米は主に業者、直売所、個人、飲食店などへ販売していますが、原発事故後は個人販売が減少し、業者への販売は風評により、他県の相場より安値で取引されるなど影響を受けました。

このような時、コンバインの更新時期を迎え、新たな機械の導入を検討していました。先が見えない中、資金の借入れはしたくないと悩んでいた時、かつて農地売買などでお世話になっていた県農業振興公社の担当者と話す機会がありました。

「コンバインの更新時期が近いので、何か良い事業はないか」と相談したところ、公社のリース事業を勧められ、他の事業も検討しましたが、リース料が100%経費算入され、手続きも簡易で高性能なコンバインが導入できる公社のリース事業に決めました。

今回導入したコンバインは、以前使用していたものと同じ6条刈ですが、軽量のため湿田でも圃場を荒らすことが少なく、刈り取り終了後に行う耕起作業もスムーズに進めることができました。

そのお陰で、体への負担も軽減され、余暇も取れるようになるなど、大変喜んでいきます。

来年度は、新たに隣接水田を2ha賃借できるこ

とが決まり、作業効率の向上が図られるものと思います。



向かって左から、後継者の雄治さん
経営主の哲夫さん、妻の美津子さん

福島農業は大震災、原発事故後、大変不利な所からのスタートとなりました。農地の除染、米の全量全袋検査、風評被害、TPPなど新たな問題を解決しなければ先に進めない状況にありますが、できることから一つずつ解決して、前に進んで行くしかないと考えています。

今回のリース事業の活用により、秋作業の効率化だけでなく、燃費の向上によるコストダウンが可能となり、農業経営の健全化に繋がり大変良かったと思います。

しかし、公社事業で従来あった補助付きリース事業が廃止になったのは大変残念に思います。

このような大変な時代にこそ、新たな事業として復活することを望むとともに、福島農業再生の起爆剤となるような支援を期待しています。

編集後記 2012年も駆け足で通り過ぎようとしています。先日、浅草の浅草寺でおみくじを引いたところ『凶』を引いてしまい、旅行気分も何処へやら、即、境内に結んで帰ってきました。後日知ったのですが、浅草寺のおみくじはそれぞれ入っている数が公表されており、大吉16本、吉35本、半吉12本、末吉6本、末小吉1本、凶30本の100種類なのだそうです。凶の確率が30%というのには驚きましたが、少しホッとしました。「凶が出て辛抱強さをもって誠実に過ご

すことで、吉に転じます。」とありましたが、福島の復興への思いにも重なりました。一步ずつ辛抱強く前に進みたいものです。皆様方どうぞ良いお年をお迎え下さい。(S. M)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8F

財団法人福島県農業振興公社 総務課

TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277

URL <http://www.fnk.or.jp>